



## ユーザの中央展開への移動

---

- ユーザの中央展開への移動の概要 (1 ページ)
- 中央クラスタマイグレーションの要件となるタスク (1 ページ)
- 中央クラスタタスクフローへの移行 (3 ページ)

### ユーザの中央展開への移動の概要

この章では、既存の IM およびプレゼンスサービスを使用しているユーザを標準の分散 IM およびプレゼンスサービスの導入 (Cisco ユニファイド コミュニケーション マネージャ 上の IM サービスとプレゼンスサービス) から展開に移行する手順について説明します。集中展開では、IM and Presence 展開とテレフォニー展開は、別々のクラスタに位置します。

### 中央クラスタマイグレーションの要件となるタスク

すべてのユーザを既存の分散クラスタから移行させる新たな IM and Presence 中央クラスタを設定する場合は、以下の必須手順を実行して、移行用クラスタを設定します。



- (注) 移行に含まれない新しいユーザを追加する場合は、[集中展開の設定](#)の手順に従って、新しいユーザに中央クラスタを設定することができます。設定が正常に動作していることを確信した後にはのみ、既存のユーザを中央クラスタに移行します。
-

表 1: 移行前のタスク

	移行前のタスク
ステップ 1	<p>新しい中央クラスタを移行クラスタに接続します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. IM and Presence サービスの集中型クラスタでデータベース パブリッシャ ノードにログインします。</li> <li>2. Cisco Unified CM IM and Presence Administration から、[システム (System) ]&gt; [集中展開 (Centralized Deployment) ] を選択します。</li> <li>3. [検索(Find)] をクリックして、次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 既存のクラスタを選択して、<b>選択したものを編集する</b> をクリックします。</li> <li>• [新規追加 (Add New) ] をクリックして、移行クラスタを追加します。</li> </ul> </li> <li>4. 追加する移行クラスタ毎に、以下のフィールドに入力を行います。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ピア アドレス (Peer Address)</b> : リモート テレフォニーのパブリッシャ ノードの FQDN、ホスト名、IPv4 アドレス、または IPv6 アドレス</li> <li>• <b>AXL ユーザ名 (AXL Username)</b> : リモートクラスタ上の AXL アカウントのログインユーザ名。</li> <li>• [AXLパスワード (AXL Password) ] : リモートクラスタ上の AXL アカウントのパスワード。</li> </ul> </li> <li>5. [保存 (Save) ] をクリックします。</li> </ol>
ステップ 2	<p>新しい中央クラスタが IM and Presence クラスタ間ネットワークの一部になる場合は、中央クラスタと、移行の一部ではない IM and Presence ピアクラスタ間のクラスタ間ピアリングを設定します。次のガイドラインが適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 中央クラスタと移行クラスタ間でクラスタ間ピアリングを設定する必要はありません。ただし、移行しているクラスタに、移行時に任意の数の非移行クラスタが設定されているクラスタ間ピア接続がある場合は、これらのクラスタ間ピア接続が中央クラスタで設定されている必要があります。移行または移行は機能しません。</li> <li>• クラスタ間ピアリングを設定した後は、クラスタ間ピアリングステータスを確認して、設定が正しく機能することを確認してください。</li> </ul> <p>詳細については、<a href="#">クラスタ間ピアの設定</a>を参照してください。</p>

# 中央クラスタ タスク フローへの移行

これらのタスクを実行して、既存のユーザを分散クラスタ（Ciscoユニファイド コミュニケーションマネージャの IM and Presence サービス）から中央管理の IM and Presence クラスタに移行します。このタスク フローに含まれるタスク：

- **IM and Presence Central Cluster** は、ユーザの移行先クラスタを参照します。移行後は、このクラスタは IM and Presence のみを処理します。
- **移行元 クラスタ**とは、IM and Presence ユーザの移行元 クラスタを指します。このクラスタは移行後は、テレフォニーのみを処理します。

## はじめる前に

IM and Presence の中央クラスタが新たにインストールされたクラスタであり、まだユーザを持っていない場合は、ユーザを移行する前に [中央クラスタ マイグレーションの要件となるタスク \(1 ページ\)](#) を完了します。

表 2: 中央クラスタ タスク フローへの移行

	IM and Presence 中央クラスタ	クラスタの移行	目的
ステップ 1		<a href="#">移行元クラスタからの連絡先リストのエクスポート (5 ページ)</a>	移行クラスタのユーザ連絡先リストを csv ファイルにエクスポートします。
ステップ 2		<a href="#">移行元クラスタのハイアベイラビリティの無効化 (6 ページ)</a>	移行元クラスタ内のすべてのプレゼンス冗長グループ（サブクラスタ）のハイアベイラビリティを無効にします。
ステップ 3		<a href="#">IM and Presence の UC Service の設定 (7 ページ)</a>	移行元クラスタで、IM and Presence 中央クラスタをポイントするIM and Presence UC サービスを設定します。
ステップ 4		<a href="#">IM and Presence のサービスプロファイルの作成 (8 ページ)</a>	移行元クラスタで、設定した IM and Presence UC サービスを使用するサービスプロファイルを作成します。

	IM and Presence 中央クラスタ	クラスタの移行	目的
ステップ 5		テレフォニークラスタでのプレゼンスユーザの無効化 (8 ページ)	移行元クラスタの一括管理を使用して、ユーザの IM and Presence を無効にします。
ステップ 6		中央クラスタの OAuth 認証を有効にする (10 ページ)	オプション。移行元クラスタで、OAuth 更新ログインを有効にします。これで、中央クラスタの機能も有効になります。
ステップ 7	中央クラスタのハイアベイラビリティの無効化 (10 ページ)		IM and Presence 中央クラスタのすべてのプレゼンス冗長グループ (サブクラスタ) でハイアベイラビリティを無効にします。
ステップ 8	中央および移行クラスタのピア関係を削除する (11 ページ)		クラスタ間ピアリングが中央クラスタと移行クラスタの間に存在する場合は、両方のクラスタでピア接続を削除します。
ステップ 9	Cisco Intercluster Sync Agent (11 ページ)		IM and Presence 中央クラスタ内の Cisco Intercluster Sync Agent を停止します。
ステップ 10	機能グループテンプレート経由の IM and Presence の有効化 (12 ページ)		中央クラスタで、IM and Presence サービスを有効にする機能グループテンプレートを設定します。
ステップ 11	中央クラスタでの LDAP 同期の完了 (13 ページ)		LDAP ディレクトリ同期への機能グループテンプレートの追加移行元クラスタから、この同期を使用して、ユーザを追加します。
ステップ 12	中央クラスタへの連絡先リストのインポート (15 ページ)		一括管理と、前の手順で作成した csv エクスポートファイルを使用して、連絡先リストを中央クラスタにインポートします。

	IM and Presence 中央クラスタ	クラスタの移行	目的
ステップ 13	<a href="#">Cisco Intercluster Sync Agent を起動する (16 ページ)</a>		中央クラスタで Cisco Intercluster Sync Agent を起動します。
ステップ 14	<a href="#">中央クラスタのハイアベイラビリティの有効化 (16 ページ)</a>		中央クラスタ内のすべてのプレゼンス冗長グループでハイアベイラビリティを有効にします。
ステップ 15	<a href="#">移行クラスタの残りのピアを削除する (17 ページ)</a>		移行クラスタ (現在はテレフォニッククラスタ) とその他のピアクラスタ間の残りのクラスタ間ピア接続を削除します。

## 移行元クラスタからの連絡先リストのエクスポート

この手順は、分散 IM and Presence 展開から集中配置に移行する場合にのみ使用します。移行元クラスタで、ユーザの連絡先リストを csv ファイルにエクスポートして、後で中央クラスタにインポートします。以下の 2 種類の連絡先リストをエクスポートすることができます。

- 連絡先リスト：このリストは、IM and Presence 連絡先で構成されます。IM アドレスがない連絡先は、このリストにエクスポートされません（非プレゼンス連絡先リストをエクスポートする必要があります）。
- 非プレゼンス連絡先リスト：このリストは、IM アドレスを持っていない連絡先で構成されます。

### 手順

**ステップ 1** 古いクラスタ（テレフォニッククラスタ）で Cisco Unified CM の IM and Presence 管理にログインします。

**ステップ 2** エクスポートする連絡先リストの種類に応じて、以下のいずれかのオプションを選択します。

- 連絡先リストのエクスポートは、一括管理(Bulk Administration) > 連絡先リスト(Contact List) > 連絡先リストのエクスポート(Export Contact List)を選択します。
- 非プレゼンス連絡先リストのエクスポートの場合は、一括管理(Bulk Administration) > 非プレゼンス連絡先リスト(Non-presence Contact List) > 非プレゼンス連絡先リストのエクスポート(Export Non-presence Contact List) を選択し、次のステップはスキップします。

**ステップ 3** 連絡先リストのみ。連絡先リストをエクスポートするユーザを選択します。

- a) 連絡先リストのオプションのエクスポートの下で、連絡先リストのエクスポート先となるユーザのカテゴリを選択します。デフォルトのオプションはクラスタ内のすべてのユーザです。
- b) 検索(Find) をクリックして、ユーザリストを表示して、次へ(Next) をクリックします。

ステップ4 ファイル名を入力します。

ステップ5 ジョブ情報 の下で、このジョブをいつ実行するかを設定します。

- **すぐに実行** : 連絡先のリストを即座にエクスポートするには、このボタンをオンにします。
- **後で実行** : ジョブを実行する時間をスケジュールする場合は、このボタンをオンにします。

ステップ6 [送信 (Submit) ] をクリックします。

- (注) **すぐに実行** を選択した場合、エクスポートファイルは即時に生成されます。**後で実行** を選択した場合は、このジョブを実行する時間をスケジュールするために、(一括管理 > ジョブ スケジューラ) でジョブ スケジューラを使用しなければなりません。

ステップ7 エクスポート ファイルが生成された後のCSV ファイルのダウンロード :

- a) 一括管理(Bulk Administration) > ファイルをアップロード/ダウンロード(Upload/Download Files) を選択します。
- b) [検索 (Find) ] をクリックします。
- c) ダウンロードするエクスポート ファイルを選択して、**選択したファイルをダウンロード** をクリックします。
- d) 安全性の高い場所にファイルを保存します。

ステップ8 別の CSV エクスポート ファイルを作成する場合は、この手順を繰り返します。たとえば、連絡先リストのエクスポートファイルを作成する場合は、非プレゼンスの連絡先リストとして別のファイルを作成することができます。

次のタスク

[移行元クラスタのハイ アベイラビリティの無効化 \(6 ページ\)](#)

## 移行元クラスタのハイ アベイラビリティの無効化

集中展開型への移行の場合は、移行元テレフォニークラスタの各プレゼンス冗長グループ (サブクラスタ) でハイ アベイラビリティを無効にします。

手順

ステップ1 古いクラスタで、Ciscoユニファイド コミュニケーション マネージャ のパブリッシャ ノードにログインします

- ステップ 2** Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [プレゼンス冗長グループ (Presence Redundancy Groups)] を選択します。
- ステップ 3** 検索 (Find) をクリックします。
- ステップ 4** ハイ アベイラビリティの有効化のチェック ボックスをオフにします。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 6** サブクラスタ毎に、この手順を繰り返します。

(注) すべてのサブクラスタに対してこの手順を完了したら、少なくとも2分待ってから、このクラスタで追加の設定を完了に進みます。

---

### 次のタスク

[IM and Presence の UC Service の設定 \(7 ページ\)](#)

## IM and Presence の UC Service の設定

リモートテレフォニー クラスタでこの手順を使用して、IM and Presence サービスの中央クラスタを指す UC サービスを設定します。テレフォニー クラスタのユーザは、IM and Presence 集中クラスタから IM and Presence サービスを取得します。

### 手順

- 
- ステップ 1** テレフォニー クラスタで Cisco Unified CM の管理インターフェイスにログインします。
- ステップ 2** [ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [UC サービス (UC Service)] を選択します。
- ステップ 3** 次のいずれかを実行します。
- [検索 (Find)] をクリックし、編集する既存のサービスを選択します。
  - [新規追加 (Add New)] をクリックして、新しい UC サービスを作成します。
- ステップ 4** [UC サービスタイプ (UC Service Type)] ドロップダウンリスト ボックスから、[IM and Presence] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 5** [製品タイプ (Product type)] ドロップダウン リスト ボックスから、[IM and Presence サービス (IM and Presence Service)] を選択します。
- ステップ 6** クラスタの一意の [名前 (Name)] を入力します。これはホスト名である必要はありません。
- ステップ 7** ホスト名 / IP アドレスで、IM and Presence の集中型クラスタデータベースのパブリッシュ ノードのホスト名、IPv4 アドレス、あるいは IPv6 アドレス を入力します。
- ステップ 8** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 9** 推奨。この手順を繰り返して、ホスト名 / IP アドレス フィールドが集中クラスタのサブスクライバ ノードを指す 2 番目の IM and Presence サービスを作成します。
-

## 次のタスク

[IM and Presence のサービス プロファイルの作成 \(8 ページ\)](#)

# IM and Presence のサービス プロファイルの作成

リモート テレフォニー クラスタでこの手順を使用して、IM and Presence 中央クラスタを指すサービス プロファイルを作成します。テレフォニー クラスタのユーザは、このサービス プロファイルを使用して中央クラスタから IM and Presence サービスを取得します。

## 手順

---

**ステップ 1** Cisco Unified CM の管理から、[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [サービスプロファイル (Service Profile)] を選択します。

**ステップ 2** 次のいずれかを実行します。

- a) [検索 (Find)] をクリックし、編集する既存のサービス プロファイルを選択します。
- b) [新規追加 (Add New)] をクリックして、新しいサービス プロファイルを作成します。

**ステップ 3** **IM and Presence Profile** セクションで、以前のタスクで設定した IM and Presence サービスを設定します。

- a) **プライマリ** ドロップダウンでデータベース パブリッシュ ノード サービスを選択します。
- b) **セカンダリ** ドロップダウンで、サブスクリバ ノード サービスを選択します。

**ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。

---

## 次のタスク

[テレフォニー クラスタでのプレゼンス ユーザの無効化 \(8 ページ\)](#)

# テレフォニー クラスタでのプレゼンス ユーザの無効化

テレフォニー展開で既に LDAP 同期が完了している場合は、一括管理ツールを使用して、IM and Presence ユーザのテレフォニー クラスタ内のユーザ設定を編集します。この設定では、プレゼンス ユーザが IM およびプレゼンスサービスの集中クラスタを指します。





(注) この手順は、テレフォニークラスタのLDAP同期がすでに完了していることを前提としていません。ただし、LDAPの初期同期が未完了の場合は、最初の同期にプレゼンスユーザの集中導入設定を追加することができます。この場合は、テレフォニークラスタに対して以下の操作を実行します。

- 先ほど設定した **サービス プロファイル**を含む機能グループ テンプレートを設定します。**ホーム クラスタ** オプションが選択されていること、**Unified CM IM and Presence のユーザを有効にする** オプションが選択されていないことを確認してください。
- **LDAP ディレクトリ設定**で、**機能グループ テンプレート**をLDAPディレクトリ同期に追加します。
- 最初の同期を完了します。

機能グループ テンプレートおよびLDAPディレクトリ同期の設定の詳細は、*Cisco Unified Communications Manager*システム設定ガイドの「エンドユーザの設定(Configure End Users)」セクションを参照してください。

## 手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration で、**クエリ(Query) > 一括管理(Bulk Administration) > ユーザ(Users) > ユーザの更新(Update Users) > クエリ(Query)**を選択します。
- ステップ 2** フィルタで、**ホーム クラスタが有効(Home Cluster Enabled)**を選択し、**検索(Find)**をクリックします。このウィンドウには、ここをホーム クラスタとするすべてのエンドユーザが表示されます。
- ステップ 3** [次へ (Next) ]をクリックします。  
**ユーザ設定の更新** ウィンドウの一番左のチェック ボックスで、この設定をこのクエリで編集するかどうかが表示されます。左側のチェック ボックスをチェックしないと、フィールドはクエリによって更新されません。右側のフィールドは、このフィールドの新しい設定を示しています。2つのチェック ボックスが表示されている場合は、左側のチェック ボックスをオンにしてフィールドを更新し、右側のチェック ボックスには新しい設定を入力する必要があります。
- ステップ 4** **サービスの設定** で、以下の各フィールドの左側のチェック ボックスをオンにして、これらのフィールドを更新することを示してから、隣の設定を以下に従って編集します。
  - **ホーム クラスタ** : ホーム クラスタとしてテレフォニー クラスタを有効にするには、右側のチェック ボックスをオンにします。
  - **Unified CM IM and Presence のユーザを有効にする** : 右のチェックボックスはオンにしません。この設定では、IM and Presenceのプロバイダーとしてテレフォニークラスタを無効にします。
  - **UC サービス プロファイル**—ドロップ ダウンから、先ほどのタスクで設定したサービス プロファイルを選択します。この設定では、IMおよびプレゼンスサービスのプロバイダーとなる IM and Presenceの集中クラスタがユーザに表示されます。

- (注) Expressway モバイルおよびリモートアクセスの設定については、<https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/expressway-series/products-installation-and-configuration-guides-list.html>にある『Cisco Expressway 経由のモバイルおよびリモートアクセス導入ガイド』を参照してください。

**ステップ 5** 残りのすべてフィールドの入力を完了します。フィールドとその設定を含むヘルプは、オンラインヘルプを参照してください。

**ステップ 6** ジョブ情報の下の**今すぐ実行(Run Immediately)**を選択します。

**ステップ 7** [Submit] をクリックします。

---

### 次のタスク

[中央クラスタの OAuth 認証を有効にする \(10 ページ\)](#)

## 中央クラスタの OAuth 認証を有効にする

テレフォニー クラスタの OAuth 認証を有効にするには、以下の手順を使用します。これで、IM and Presence 中央クラスタでも OAuth 認証が可能になります。

### 手順

**ステップ 1** テレフォニー クラスタで Cisco Unified CM 管理にログインします。

**ステップ 2** システム > エンタープライズ パラメータを選択する

**ステップ 3** SSO と OAuth の設定 の下で、更新ログイン フローを使用した OAuth のエンタープライズ パラメータを 有効に設定します。

**ステップ 4** パラメータ設定を編集した場合は、保存 (Save) をクリックします。

## 中央クラスタのハイ アベイラビリティの無効化

IM and Presence 中央クラスタの各プレゼンス冗長グループ (サブクラスタ) でハイアベイラビリティが無効であることを確認します。この手順は、設定の適用またはユーザの移行を開始する前に行う必要があります。

### 手順

**ステップ 1** 中央クラスタの Cisco Unified CM 管理インスタンスにログインします。

**ステップ 2** [System (システム)] > [Presence Redundancy Groups (プレゼンス冗長グループ)] を選択します。

**ステップ 3** 検索(Find) をクリックして、既存のサブ クラスタを選択します。

**ステップ4** ハイ アベイラビリティの有効化のチェック ボックスをオフにします。

**ステップ5** [保存 (Save) ]をクリックします。

**ステップ6** 各サブクラスタに対してこの手順を繰り返します。

---

次のタスク

[Cisco Intercluster Sync Agent \(11 ページ\)](#)

## 中央および移行クラスタのピア関係を削除する

IM and Presence 中央クラスタと移行クラスタの間にクラスタ間ピアリングが存在する場合は、そのピア関係を削除します。

手順

---

**ステップ1** IM およびプレゼンスサービスの中央クラスタのパブリッシャ ノードにログインします。

**ステップ2** Cisco Unified CM IM and Presence 管理で、**プレゼンス(Presence)** > **クラスタ間(Inter-Clustering)** を選択します。

**ステップ3** **検索(Find)** をクリックして移行クラスタを選択します。

**ステップ4** [削除 (Delete) ]をクリックします。

**ステップ5** **Cisco XCP ルータ** を再起動します：

- Unified IM and Presence Serviceability にログインして、**ツール(Tools)** > **コントロール センター - ネットワーク サービス(Control Center - Network Services)** を選択します。
- サーバリストから、データベース パブリッシャ ノードを選択して、**移動(Go)** をクリックします。
- [IM and Presenceサービス (IM and Presence Services) ] の下で、[Cisco XCPルータ (Cisco XCP Router) ] を選択し、[リスタート(Restart)] をクリックします

**ステップ6** 移行クラスタでこれらの手順を繰り返します。

---

## Cisco Intercluster Sync Agent

IM and Presence の中央クラスタを設定する前に、中央クラスタで**Cisco Intercluster Sync Agent** サービスが停止していることを確認します。

手順

---

**ステップ1** Cisco Unified IM and Presence のサービスアビリティから、**ツール > コントロールセンター - ネットワークサービス** を選択します。

- ステップ 2** サーバド롭ダウンリストボックスからパブリッシャノードを選択し、**移動(Go)**をクリックします。
- ステップ 3** **Cisco Intercluster Sync Agent** のステータスを確認します。サービスが開始されているか、アクティブである場合は、隣接するオプションボタンを選択して、**停止(Stop)**をクリックします。

#### 次のタスク

[機能グループテンプレート経由の IM and Presence の有効化 \(12 ページ\)](#)

## 機能グループテンプレート経由の IM and Presence の有効化

この手順で、集中クラスタの IM and Presence の設定を使用して機能グループテンプレートを設定します。機能グループテンプレートを LDAP ディレクトリの設定に追加して、同期ユーザに IM and Presence を設定することができます。



- (注) 初回同期がまだ行われていない場合のみ、LDAP ディレクトリ同期に機能グループテンプレートの編集内容を適用することができます。集中クラスタから LDAP 設定を同期した後は、Cisco ユニファイドコミュニケーションマネージャの LDAP 設定に編集を適用することはできません。すでにディレクトリを同期している場合は、一括管理を使用して、ユーザの IM and Presence を設定する必要があります。詳細については、[一括管理を介した IM and Presence ユーザの有効化](#)を参照してください。

#### 手順

- ステップ 1** IM and Presence 集中型クラスタの Cisco Unified CM の管理インターフェイスにログインします。このサーバにはテレフォニーが設定されてはいけません。
- ステップ 2** [ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ電話/追加 (User Phone/Add)] > [機能グループテンプレート (Feature Group Template)] を選択します。
- ステップ 3** 次のいずれかを実行します。
- [検索 (Find)] をクリックし、既存のテンプレートを選択します。
  - [新規追加 (Add New)] をクリックして新しいテンプレートを作成します。
- ステップ 4** 次の両方のチェックボックスをオンにします。
- [ホームクラスタ (Home Cluster)]
  - [Unified CM IM and Presence のユーザを有効にする (Enable User for Unified CM IM and Presence)]
- ステップ 5** [機能グループテンプレートの設定 (Feature Group Template Configuration)] ウィンドウの残りのフィールドに入力します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

ステップ6 [保存 (Save) ]をクリックします。

#### 次のタスク

設定をユーザに適用するには、初期同期がまだ行われていない場合は、機能グループ テンプレートを LDAP ディレクトリの設定に追加してから初期同期を完了する必要があります。

[中央クラスタでの LDAP 同期の完了 \(13 ページ\)](#)

## 中央クラスタでの LDAP 同期の完了

リモート Cisco ユニファイド コミュニケーション マネージャ のテレフォニー クラスタでこの手順を使用して、LDAP 同期を使用して、IM and Presence 集中型設定を Cisco ユニファイド コミュニケーション マネージャ の展開に展開します。



(注) LDAP ディレクトリ同期の設定方法については、*Cisco Unified Communications Manager* システム構成ガイドの「エンドユーザの構成」の部分を参照してください。

#### 手順

ステップ1 Cisco Unified CM の管理で、システム > LDAP > LDAP ディレクトリ を選択します。

ステップ2 次のいずれかを実行します。

- [検索 (Find) ]をクリックし、既存の LDAP ディレクトリ同期を選択します。
- [新規追加 (Add New) ]をクリックして、新しい LDAP ディレクトリ同期を作成します。

ステップ3 [機能グループテンプレート (Feature Group Template) ]ドロップダウンリストボックスから、前のタスクで作成した機能グループテンプレートを選択します。IM and Presence は、このテンプレートで無効にする必要があります。

ステップ4 [LDAP ディレクトリ (LDAP Directory) ]ウィンドウで残りのフィールドを設定します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

ステップ5 [保存 (Save) ]をクリックします。

ステップ6 [完全同期を実施 (Perform Full Sync) ]をクリックします。

Cisco ユニファイド コミュニケーション マネージャ は、データベースを LDAP ディレクトリと同期させ、更新された IM and Presence 設定を割り当てます。

#### 次のタスク

[中央クラスタへの連絡先リストのインポート \(15 ページ\)](#)

## 一括管理を介した IM and Presence ユーザの有効化

ユーザをすでに中央クラスタに同期させており、それらのユーザが IM and Presence サービスに対して有効になっていない場合は、一括管理の [ユーザの更新(Administration's Update)] 機能を使用して、それらのユーザを IM and Presence サービスに対して有効にします。



(注) 一括管理の [ユーザのインポート(Administration's Import)] または [ユーザの挿入(Insert Users)] 機能を使用して、CSVファイルを介して新しいユーザをインポートすることもできます。手順は、*Cisco Unified Communications Manager* 一括管理ガイドを参照してください。インポートしたユーザで、下記のオプションが選択されていることを確認します。

- [ホームクラスタ (Home Cluster)]
- [Unified CM IM and Presence のユーザを有効にする (Enable User for Unified CM IM and Presence)]

### 手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、[一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [ユーザの更新 (Update Users)] > [クエリ (Query)] の順に選択します。
- ステップ 2** フィルタで、**ホームクラスタが有効になっている**を選択して、**検索(Find)**をクリックします。このウィンドウには、ここをホーム クラスタとするすべてのエンドユーザが表示されます。
- ステップ 3** [次へ (Next)] をクリックします。  
**ユーザ設定の更新** ウィンドウの一番左のチェック ボックスで、この設定をこのクエリで編集するかどうかが表示されます。左側のチェックボックスをチェックしないと、フィールドはクエリによって更新されません。右側のフィールドは、このフィールドの新しい設定を示しています。2つのチェックボックスが表示されている場合は、左側のチェックボックスをオンにしてフィールドを更新し、右側のチェックボックスには新しい設定を入力する必要があります。
- ステップ 4** **サービス設定**で、以下の各フィールドの左側のチェックボックスをオンにして、これらのフィールドを更新することを示し、隣接するフィールドの設定を次のように編集します。
- **ホームクラスタ**: このクラスタをホームクラスタとして有効にするには、右側のチェックボックスをオンにします。
  - **Unified CM IM and Presence でのユーザの有効化**: 右のチェックボックスを確認します。この設定により、中央クラスタがこれらのユーザの IM and Presence サービスのプロバイダーとして有効となります。
- ステップ 5** 更新が必要な残りのフィールドをすべて入力します。フィールドとその設定を含むヘルプは、**オンラインヘルプ**を参照してください。
- ステップ 6** **ジョブ情報**の下**の今すぐ実行(Run Immediately)**を選択します。

ステップ7 [Submit] をクリックします。

## 中央クラスタへの連絡先リストのインポート

ユーザーを IM and Presence Central クラスタに移行した場合は、この手順を使用してユーザの連絡先リストを IM and Presence 中央クラスタにインポートすることができます。以下のいずれかのタイプの連絡先グループがインポート可能です。

- 連絡先リスト：このリストは、IM and Presence 連絡先で構成されます。
- 非プレゼンス連絡先リスト：このリストは、IM アドレスを持っていない連絡先で構成されます。

### 始める前に

古いクラスタ（テレフォニークラスタ）からエクスポートした連絡先リストの csv ファイルが必要となります。

### 手順

- ステップ1 IM and Presence セントラルクラスタ上の Cisco Unified CM IM and Presence 管理にログインします。
- ステップ2 テレフォニー クラスタからエクスポートした csv ファイルをアップロードします。
  - a) 一括管理(**Bulk Administration**) > ファイルをアップロード/ダウンロード(**Upload/Download Files**) を選択します。
  - b) [新規追加 (Add New) ] をクリックします。
  - c) ファイルの選択(**Choose File**) をクリックして、インポートする csv ファイルを選択します。
  - d) 対象の選択 ドロップダウンで、インポートする連絡先リストの種類に応じて、以下のいずれかを選択します。連絡先リスト または 非プレゼンス連絡先リスト。
  - e) トランザクション タイプの選択で、インポート ジョブを選択します。
  - f) [保存 (Save) ] をクリックします。
- ステップ3 Csv 情報を中央クラスタにインポートします。
  - a) Cisco Unified CM IM and Presence 管理で、以下のいずれかを実行します。
    - 連絡先リストのインポートの場合は、一括管理(**Bulk Administration**) > 連絡先リスト (**Contact Lists**) > 連絡先リストの更新(**Update Contact Lists**) を選択します。
    - 非プレゼンス連絡先リストインポートの場合は、一括管理(**Bulk Administration**) > 非プレゼンス連絡先リスト(**Non-presence Contact Lists**) > 非プレゼンス連絡先リストのインポート(**Import Non-presence Contact Lists**) を選択します。
  - b) ファイル名ドロップダウンで、アップロードした csv ファイルを選択します。

- c) ジョブ情報の下で、ジョブを実行したい時期に合わせて、**すぐに実行する** または **後で実行する** を選択します。
- d) [送信 (Submit) ]をクリックします。**すぐに実行する** を選択した場合、連絡先リストはすぐにインポートされます。

(注) **後で実行する** を選択した場合、**一括管理>ジョブスケジューラ**を開き、ジョブを選択して、実行する時間をスケジュールします。

**ステップ4** 2 個目の csv ファイルをインポートする場合は、この手順を繰り返します。

次のタスク

[Cisco Intercluster Sync Agentを起動する \(16 ページ\)](#)

## Cisco Intercluster Sync Agentを起動する

設定または移行が完了したら、IM and Presence 中央クラスタで **Cisco Intercluster Sync Agent** を開始します。クラスタ間ピアリングを使用している場合、このサービスが必要です。

手順

- ステップ1** [Cisco Unified IM and Presence のサービスアビリティ (Cisco Unified IM and Presence Serviceability) ] から、[ツール (Tools) ]>[コントロールセンター-ネットワークサービス (Control Center - Network Services) ]を選択します。
- ステップ2** サーバドロップダウンから IM and Presence データベース パブリッシャ ノードを選択し、**移動 (Go)**をクリックします。
- ステップ3** **IM およびプレゼンスサービス** の下の **Cisco Intercluster Sync Agent** を選択して、**起動(Start)**をクリックします。

次のタスク

[中央クラスタのハイ アベイラビリティの有効化 \(16 ページ\)](#)

## 中央クラスタのハイ アベイラビリティの有効化

設定またはユーザの移行が完了したら、IM and Presence 中央クラスタのプレゼンス冗長グループ (サブクラスタ) でハイ アベイラビリティを有効にします。



## 手順

- ステップ 1 IM and Presence セントラル クラスタ上の Cisco Unified CM 管理インスタンスにログインします。
- ステップ 2 [System (システム)] > [Presence Redundancy Groups (プレゼンス冗長グループ)] を選択します。
- ステップ 3 検索(Find) をクリックして、既存のサブ クラスタを選択します。
- ステップ 4 ハイ アベイラビリティの有効化のチェックボックスをチェックします。
- ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 6 IM and Presence 中央クラスタの各クラスタに対してこの手順を繰り返します。

## 移行クラスタの残りのピアを削除する

移行クラスタ (現在はテレフォニークラスタ) とその他の IM and Presence サービスピアクラスタ間のクラスタ間ピア関係を削除します。



- (注) クラスタ間接続の削除は、メッシュ全体での Cisco XCP ルータの再起動の可用性に応じて、後の日付に延期することができます。テレフォニークラスタと任意の数のピアクラスタの間に既存のクラスタ間接続がある限り、現在 Cisco XCP ルータサービスを実行している場合は、テレフォニークラスタで**実行状態**のままにする必要があります。

## 手順

- ステップ 1 移行クラスタの IM and Presence データベース パブリッシャ ノードにログインします。
- ステップ 2 Cisco Unified CM IM and Presence 管理で、**プレゼンス(Presence) > クラスタ間(Inter-Clustering)** を選択します。
- ステップ 3 検索(Find) をクリックしてピアクラスタを選択します。
- ステップ 4 [削除 (Delete)] をクリックします。
- ステップ 5 **Cisco XCP ルータ**を再起動します：
  - a) Unified IM and Presence Serviceability にログインして、**ツール(Tools) > コントロール センター - ネットワーク サービス(Control Center - Network Services)**を選択します。
  - b) サーバリストから、データベース パブリッシャ ノードを選択して、**移動(Go)**をクリックします。
  - c) [IM and Presenceサービス (IM and Presence Services)] の下で、[Cisco XCPルータ (Cisco XCP Router)] を選択し、[リスタート(Restart)] をクリックします
- ステップ 6 IM and Presence サービス ピア クラスタでこれらの手順を繰り返します。

- (注) 移行クラスタに複数のクラスタへのクラスタ間ピア接続がある場合は、クラスタ間ネットワークに残っている各ピアクラスタに対してこの手順を繰り返す必要があります。つまり、移行するクラスタでは、破損しているピアクラスタ接続があるため、**Cisco XCP ルータ**が再起動するサイクルは多数あります。
-

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。